名電工高新聞

編集兼発行　名電工高新聞部
印刷所　共生印刷株式会社

校訓　誠実　勤勉

創立六十周年を迎え 生徒諸君にのぞむ

学校長　後藤　淳

大正元年市内矢場町の一角に電気学講習所が開設されて、満六十周年を迎え、先日盛大に六十周年記念式典を挙行いたしましたことは、慶賀に堪えません。

思いますに創立者、後藤喬三郎先生が、時代を達観されて、本学園の前身である電気学講習所を開設され当時各界の援助も得て特異の存在であり、時代の先駆者的意義をもって、漸く電気利用に対して不足する中堅電気技術者の養成を事とされ、多く有能の士を輩出されました。

先代後藤鉀二先生は、若くして学園の経営を継承され、幾多困難な社会情勢の中にあって、不屈の精神力と旺盛な実行力によって、僅か四十余年の短日月の間に、中部地区に君臨する一大綜合学園に進展されました。

昨年一月私は前理事長の急逝により、学園理事長・愛知工業大学学長を、高等学校長と併せ就任いたしました。先代・先々代の建学の路線をふんで、中部産業圏の中心に位置する本学園をいよいよ充実し中部産業界の進展に貢献いたしたいものと考えております。

この機会に高校生諸君に、その望むことの一端を申し上げ決意を新たにされたいものと考えます。

名古屋電気学園進展の歴史の中にあって、高等学校が基盤となって成長してまいりました。六十年という年輪を刻んだ本校が、すでに、二万人をこす卒業生を送り、それぞれの分野で活躍され大きな実績をしめていることは、大方のご承知の通りであります。

諸君がよき後輩として学問、技術に情熱を傾けて、近い将来、諸君も又卒業によってよき先輩の列に加わることであって、高校三年の努力を本当に望んでやみません。

六十年ということ考えてみるとき、孔子は論語の中で「五十而知天命、六十而耳順」とのべられ、六十年は一人の人間一つの事柄の完成する年であるといわれているが学校も名古屋電気工業高校として一応の完成をみたものと考えられます。

然し、学校での勉学は無限の挑戦であり、高校三年の勉学で得るものも限度があります。限度こそ諸君の努力の如何度合に比例して高くも低くもなるものと考えます。

若い青春の一刻を、勉学にうちこむことこそ尊いものであり、より高い自己形成への素地とし、望ましい青年人間像を確立していただきたいものと考えます。

諸君は本校六十年の伝統ある歴史をうけつぐ一員であると共に、更に進展し充実させ後輩にひきつぐ一員でもあります。

諸君が日常の生活においても、自らを慎み、次々におしよせる社会のあら波をおしきって、毅然たる態度と自信をもって、初一念を貫ぬくよう努力されることを希望してやみません。

学園創立六十周年を迎えました機会に思いますことの一端を申し上げ、生徒諸君の研鑽の資とされることを願い稿を終わります。

◇　◇

師父故後藤鉀二先生 胸像の除幕

われらの師父と仰いだ前理事長後藤鉀二先生逝いて一年。

先生の御功績を永遠に記念し、御遺徳を偲ぶためにと、学園・同窓生・愛知県体育協会がはかり、先生の胸像を設立することになった。

昨年十一月十三日。先生の御誕生日に、その除幕式が、おごそかに行なわれた。

愛和会館の前に、いつくしみの眼をもって立っておられる先生。悠久の微笑をたたえておられる先生。

われらは、生ける師父に接するが如く、日日の努力を続けたい。

卒業生諸君へ

三年主任　山下　平八朗

まずは卒業おめでとう。

昭和47年度卒業生として巣立つ諸君は、大きな波乱もなく、平穏な実社会に出ていくのであろうが、当初、経済、社会的な変動で就職も昨年度に比較して、厳しいということであり、憂慮する面もあったのであるが、幸い就職試験時には求人も多く、希望職種に内定した諸君も多かったようであり、まずは積年の学校内外の努力の成果と、関係先生のご配慮と感謝している次第である。

一方上級学校進学をめざす諸君も、年々希望者が増加し、それだけに一層厳しい条件がうまれてきている。

まずは卒業おめでとう。就職をきめて、めまぐるしく発展し変動する実社会に巣立つ諸君は学校を卒業するということはこれが最後である。

さらに学問を志し、上級学校への進学をする諸君ともに前途に希望を抱き、一層自己の研鑽に励むことを忘れないように。

まさに青年期の万感を内蔵した三年間の高校生活は何らかの影響を各自に与えて将来への土台を築くにふさわしかったか否か、早急に決論を出さないとしても将来の歩むべき方向、目的経験によって実証されることと思う。

人の一生を旅に喩えるとすれば、卒業する諸君はまさに旅立ちのときである。俳人芭蕉が、旅を友とし、一生を文字通り旅にすごしたことは、諸君の学んだことであるが、前途に如何なる苦難、障害があると仮定しても、それを克服するは諸君の冒険の心であり、希望する道への情熱でなければならない。

とかく妥算と安易さが先に立つ現代であるとしても一縷の夢を将来に抱くは、甘い考えであろうか。否、一見無鉄砲とみえる考え、行動はまさに、ヤングの特権でもあろうか。すべからく肯定的、能動的に対処することが望ましくはなかろうか。

総じて昨今の諸君は、消極的、むしろ覇気の乏しい感じを与えているようであり、生甲斐を享楽に求め、恵まれすぎる物質文明の恩恵を充分に満喫しようとする傾向は否めない。

世にいうマスコミの影響で平均的、画一的な人間形成がなされ、思考、行動すべて個性的な特徴がかげをひそめているように思う。

一個の人間として、バイタリティーに富み、少々の失敗などで挫折せず、腕白でもいい、逞しく生きていける若者になって、人生への旅立ちをしてもらいたいと願うことになる。

昭和47年度卒業生として巣立つ諸君は、大きな波乱もなく、平穏な実社会に出ていくのであろうが、当初、経済、社会的な変動で就職も昨年度に比較して、厳しいということであり、憂慮する面もあったのであるが、幸い就職試験時には求人も多く、希望職種に内定した諸君も多かったようであり、まずは積年の学校内外の努力の成果と、関係先生のご配慮と感謝している次第である。

一方上級学校進学をめざす諸君も、年々希望者が増加し、それだけに一層厳しい条件がうまれてきている。

はやくからの準備対策のみならず一層の努力が望まれるとして、結果がよかれとただ祈るのみである。

卒業生諸君、ながい人生での競争に耐えぬいていくのに必要なのは、まず健康が第一であり、それに努力である。つねに自己を精神的にも、肉体的にも鍛練していくことを忘れずに、頑張ってほしい。前途に大きな目標と希望をめざし、初心を忘れることなく、青春の情熱をいつまでも燃やしつづけてほしい。責任感と実行力こそ大切な心がまえと思う。

最後に一つ望むことは、趣味をもつ人になってほしい。特に現代社会での生活に必要なのは、潤いのある生活ではなかろうか、何か一つ人間性を涵養するにふさわしい趣味をもつことが大切かと思う。

卒業に際して

E−3G　鈴木　守弘

学生達の会話に深夜放送が話題になるのは、日常茶飯事であることは珍らしくない。特に高校生の中ではそれは生活必需品のようなものであり、唯一の対話の機会であり機能である。

私自身も、深夜にラジオから流れてくる会話を聞くと、何かの物体にすぽりと包まれているような気持ちになる。

しかし、何故高校生がそれに心をひかれて行くのか。

そしてまた、愛着感をそれに対して持つのだろうか。

私の場合も全くその通りなのである。

だが、学生達は自分だけで悩み苦しんでいる。親身になって相談にのってくれる友人がいないのが現実である。それに、両親と話す機会が薄いので、どうしても孤立化してしまい、揚句の果てに、自分の世界に閉じこもりがちになる。

そして、何かに頼りたくなるのは人間の本能である。

それを解消する方法として、深夜放送に耳を傾け、同じ境遇にいる学生を発見して共感を得ている。

また、DJに悩みや苦しみを打ち明けて、意見を聞き問題の解決をして喜びを感じるのである。この事はひとえに現代の風潮であり若者のフィリングなのである。そうした状況になったのは人間性無視であり、対話による心と心の触れ合いが、得られないからである。

一番親しみ合える筈の親子に対話がないことは、いっそう私達を孤立に陥れるものだ。自分の部屋に閉じこもっていっそう苦しむ。

また、先生と生徒の間にも対話がない。どの学校にも、人間味溢れる先生がなく、ティーチングマシンが多い等といわれている。

学生達は、先生の話しかけを待っている、相談したいなどと思っている。だが現実は空しい。話し合う態勢ができていないと言っても過言ではない。従って、学生達は深夜放送に頼ってしまうことになる。

孤立化し、孤独感にさいなまれている学生にとって深夜放送は、友人であり先輩であり、兄姉である。

そればかりに心ひかれていると、自主性や個性が隠れてしまい、ほんとうの自分が育たなくなる。これは特に女子に多いといわれている。かといって、それを聞くことを禁止することもない。その不安不満を何で補えばよいのだろうか。

とかく、放送というものは、一方通行というのが定説であるが、深夜放送の場合は、一方通行でありながら身近に感じる妙なものをもっている。これは、DJと学生の相互に親密なコミュニケーションが形成されているからである。このようにして、高校生と深夜放送とは一体であり、心と心の交流の場であり、対話による人生観の基礎が生まれてくるものであることを強調したい。

しかし、深夜放送を聞いている学生の中には、ただいたずらに、ロック調の音楽にひたって、現実逃避してしまう者も多いという。

こんな現象は好ましくない。閉口ものである。

直面した問題をさけることは負け犬である。それは若者らしくない。

でも、このような態度で時間を空費する者があることも事実であり、また、そのような現実は容易には、変わることがないようだ。

何かのきっかけによってそのような負け犬タイプは消えて行くことを望みたいや、そうしなければならぬと思う。この事を思うだけで、私は苦痛を感じてしかたがない。

現実逃避をしている学生ほど、ぴったりとした対話を強く欲しているのではないだろうか。

こういう学生達がよろこんで参加できる話し合いの場を提供してほしいと考えている。

明るく学生らしく振舞える者たちでいっぱいの現実にならないだろうか。

私は、それを友人や、学校や、教師に求めたいのである。

解決の糸口を与えてくれる者、気易く何でも話しかけるものがあること、それは思ってみただけでも心が躍るのである。

公共のものであり、その数も少なく、市民は乗合バスを利用しており、トロリーバス（電気自動車）がその半数を占め、騒音、あるいは大気汚染に対する考慮がなされているようです。自転車の荷台に弁当を付け、質素な服装で大通りを行交う姿が、中国の一般的労働者のようです。

自転車が多い理由は、交通機関がまだ十分発達しておらず、乗合バスも数が少ない事にあるようです。自転車は労働者の平均給与、約六〇元（八四〇〇円）に対して、約一二〇元と割合に高いようです。そのため、非常に手入れが行届き大切にしています。

中国では、すべての人民が、労働を通して国家に奉仕する考え方が徹底していて、「為人民服務」することを自分達の義務とし、生甲斐として、国家建設に参加しています。

こうした訳で、女性も男性と同じように労働に参加し、子供のいる家庭でも共稼ぎが多く、男女平等に、職種に対して賃金が支払われ、また、各職場に託児所が設けられ、月一五元（二一〇〇円）程度で預けられること等が、職場に女性を多くしています。

天津は北京の南東約一四〇キロにある、人口四〇〇万を越える大都市で、商工業の中心地です。ここでは絨氈工場、運動球製造工場、楽器工場などを見学しましたが、どこへ行っても「世界人民大団結万歳」「熱烈歓迎日本朋友来我」等の、のぼりを掲げ、ドラや太鼓を叩き、労働者全員が拍手でもって迎えてくれました。

おりますのが、楽器工場で自分達の造った楽器を演奏し、歌っていただいた事です。「全世界人民は必ず勝利する」「楽しい戦士」「赤い太陽が偏境をさす」「毛主席を懐しく思う」「永遠に毛主席を愛する」「我等の指導者毛沢東」「北の風が吹く」等、それは革命の歌であり、労働の歌でした。その歌う仕種、目の輝き、永い、苦しい闘争の中で、自分達の手で、現在の生活を勝ち取ったのだという、自信に満ちた、そして明るい未来を見据える目のように思いました。

遼寧省、瀋陽は天津から汽車で約九時間、旧名奉天昔このあたり一帯を満州と呼び、当時日本人が中国人を迫害した所です。

それだけに、同行された年輩の参観団の方は、複雑な気持であったと思います早朝六時二十五分、瀋陽に着きました。小雨の降る中を、大勢の人がホームから駅前に詰掛け、心よく拍手で迎えてくれました。こうした出迎えは、我々が中国へ入ってから、どの地でも経験しましたが、ここでのそれは、最大でした。駅前からホテルまでの家々の窓から、出勤途中の人々、学生等、立ち止まって手を振ってくれました。

ある種の不安を抱いていた我々にとって、街をあげての歓迎には、いささかの戸惑いを感じました。遊びをやめて、我々のバスに向かって駆け出し、手を振り無邪気に笑いかける幼な顔に、中国の外交姿勢を見、過去の過ちを二度と繰り返すことなく、今後、より一層の友好を深め、日中の平和、ひいては世界の平和のために、一人一人が努力すべきだと感じました。

四十六年、愛知県体育館で、第三十一回世界卓球選手権大会が開かれ、以来、いわゆる「ピンポン外交」に始まる友好的な中国の外交政策により、遂に日中の国交が回復しました。その足掛りとして、単身中国に赴き、参加を呼びかけ、日中友好の発端をつくられた故後藤鉀二先生の業績は、中国人民の心に、又、我々日本人の心に末永く残るものと思います。

山陵をどこまでも続く、万里の長城。広大な王朝文化の遺物、故宮、贅沢を極めた楽園、頤和園。そこに四〇〇〇年の歴史の流れを見、封建的、王朝体制のもとで、喘ぎ、苦しみ、それに耐えてきた中国人の血と汗と涙を見る思いがしたのであります。

一九四九年、北京政府が設立し、六四年の文化大革命を機に、より一層の躍進を続ける社会主義国、輝やかしい未来を見据え、一歩一歩前進する中国人民、その逞しさを見るとき、環境汚染、交通戦争、物価騰貴。人間性より経済優先の経済大国日本の未来に、不安を持たざるを得ないのであります。

中国に旅して

教諭　河口一雄

昨年の八月、思わぬ事で訪中の機会を得、中国について僅ばかり見聞して参りましたので、その一端を紹介させて戴きます。

中国へ入国するには、香港との境界線を徒歩で跨ぎ自由圏から共産圏に入る訳です。香港は周知のとうり花崗岩質の丘陵性のホンコン島と九竜半島を中心とした街で、急な斜面を階段状に切り開き、そこに白い近代的な高層ビルの建ち並ぶ風景は、印象的です。

一九九八年、イギリスが清国から租借し、人口四〇〇万のうち、九十八パーセントまでが中国人でありながら、今なお、直轄植民地として、他国に支配されざるを得ない、中国住民の気持ちはいかばかりでしょう。

九竜半島の突端にある九竜の駅から汽車で約一時間羅湖につく。ここで下車しいよいよ未知の世界、中国への第一歩を印す訳です。

深圳川に渡された橋の両側に、あの人民中国や、中国画報で見る、赤い星の付いた帽子をかぶり、手に銃を持った解放軍の兵士が立つ中を歩いた時、いよいよ中国へ来たんだと云う実感が胸に迫りました。

深圳の駅から、こんどは中国側の汽車で一時間五〇分、広州は人口約三〇〇万で、上海、天津と並ぶ交易の街です。バスの窓から見る市街は、煉瓦壁の家が両側に透間なく建ち並び、行交う人々の服装は非常に地味で質素であり、女性も断髪、ズボン姿です。

それでも人々の顔は活気に満ち、市中は非常に賑やかで、自転車の多いことにも驚きました。朝夕の街は自転車に乗った労働者が道路を行交い、自転車が労働者の必需品のようです。街路には必ず並木を設け、街には緑が多く、国が植樹に力を入れている様子が、ありありと見受けられました。

広州はほぼ北回帰線上、北緯二十三度で、台湾と同じ緯度にあり、非常に暑さの厳しい所です。

第一夜は、日本から用意して行ったパジャマに着がえ、お上品振ってベットに横になりましたが、体中から流れ出る汗に参り、遂には素裸で寝る始末でした。

動物園、博物館、工場と忙しく見学に出かけ、ホテルを出入りする度ごとにシャワーをかぶり、暑さを和らげました。

それでも日本のように煤煙、排気ガスで汚れ、臭気で、ずっと涼しく感じました。

広州より飛行機で三時間三〇分、北京は北緯四〇度で、盛岡と同緯度ですから

広州郊外の人民公社の子ども達

空港から市街へ通じる道路は、両側にアカシヤ、ポプラ、柳など幾重にも植えられ、それが何キロも真直に続くさまは、中国の広大さを感じさせるものでした。

都心はさすが中国の都らしく、どっしりと幅広く根をおろした感じで、天安門前広場を中心に、道幅一二〇米もあるといわれる「長安街」通りが東西に中央を貫き、建物と建物の間はゆったりと、とられ、人間の皆さんのための都市計画がなされています。

中国には自家用車は一台もなく、従って、マイカー族で混雑することは到底考えられません。車はすべて自転車で、学業を軽んじ、日々の生活に誠実さが失われ、若人らしさが欠如してきているのではないか。

しかし、この頃、繁栄とレジャーのムードが方向を変え、自然・環境・人間優先の声が生まれてきた。

余りにも、自己の利の追求に眼くらみ、PRでことの足りとしてきた上ッ調子の生活が、自らを窮地に陥れてきたその愚さに、漸く気付き厳しい反省、人間回復の声が高まってきたのである。

人の世にまことを求め、まめやかな言行一致の社会を実現することが、人間滅亡を救う唯一の道である—この正道に立ち返らねばならない。

われわれ高校生は、未来を背負っている。今何を為すべきかを直視し、社会の前進に的をしぼって、誠実に取り組むべきである。

中国の教えに、「誠は天の道なり」といわれているとか。

誠実こそ、これからの人間世界への唯一の道であり、その信念で貫ぬかれてきたわが名電校。

その名電校生であるわれわれは、全力を傾けて、この道を突進すべきである。

前校長後藤鉀二先生は、常に「一以て之を貫く」の精神で努力精励され、

後藤淳現校長先生は、「初心を忘れるな」と、原点に立って名電教育に打ちこんでおられる。

一とは誠の道。

ただこの一つの道を瞬時も忘れることなく、われわれ名電校生は、伝統ある校風の発揚に立ち上がるべきである。

三年間の感想

E−3C　草田鐘男

この三年間を、ふりかえると、いろいろと思う事がある。

第一に、なぜ教科書があまりはいらないよう、鞄を絞ってかっこうをつけたがるのだろうか。ぼくも一時鞄を絞った時があったが、その日に必要な教科書がはいらないので、途中でやめてしまった。そんな事をなぜしたいのだろうか。

それでも、教科書をもってくるのはまだましだと思う。なぜなら、鞄の中身は弁当だけで、教科書はクラブの部屋においたりして、中には、後輩にもってこさせる者がいるからである。

第二に、授業中にわいわい騒ぐ者がいることだ。その人自身はかまわないであろうが、その周囲の者は、まじめに授業を受けているのに、そんな事おかまいなしに騒いでいるのだ。それも若い先生でなく、年とった先生の授業にかぎって多い現象である。年とった先生なので、あまりおこらないし、もしおこったとしてもその事にたいしオーといってよけいにさわぐ者がいるわけだ。

第三に、これは喧嘩の強い人に多い事ですが、たとえば、ある人にパンを買ってきてくれとたのんだ時にその人が断わると、暴力でおどかしていうことをきかせるのことが見受けられることだ。なぜ弱い者をいじめて喜ぶのか。お互友だちのはずなのだ。

第四に、自分で高校の道をえらばず、親にさそわれて高校にきた者のことである。思うに、親にいわれて親の言った高校をうけている者ほど、ぐれる者が多いような感じがする。

なぜなら、自分がその学校を出て、なにをするのかがはっきりしない。目標があいまいだからと考えられる。

学校へ真面目にかよっている人がばかをみないようみんながんばらなければならないと思う。

論説　われらが進むべき道

わが名電校の創立六十周年にあたり、その設立の原点にたちかえり、そして、未来に拓くわれわれ名電健児の基盤を確かめてみたい。

大正元年（一九一二年）校祖後藤喬三郎先生によって開校された時、「誠実」を電気技術者の人間像・名電教育の基本精神として制定されたという。

この誠実が、わが校の伝統的精神として、脈々と今日に受け継がれ、また、広く産業界・社会各層に認められ、名電校の栄誉が保持されてきたのである。

いわゆる、この明治の精神ともいうべき創始者の不動の信念は、昭和の今日にも生きている。いや、生かされなければならないのである。

誠とは　まこと。

真実で偽りのないこと。

成は為し遂げる義で、言行一致の意味をもち、その言と成とを合わせて、誠の字が出来たという。

実は　みつ・富む。

家の中に金銀財宝の充満することであるが、成語としての「誠実」は、「まこと」。いつわりなくして、まめやかなことで、まごころとも解す。

辞書にはこのような説明がしてある。

この建学の精神である誠実こそ、今、われわれがかみしめねばならぬ重要な原点なのである。

戦後二十余年を経た日本はたきのめされて為す術も無かった日本が、平和のうち足りとしてきた上ッ調子の生活が、自らを窮地に陥れてきたその愚さに、漸く気付き厳しい反省、人間回復の声が高まってきたのである。

人の世にまことを求め、まめやかな言行一致の社会を実現することが、人間滅亡を救う唯一の道である—この正道に立ち返らねばならない。

われわれ高校生は、未来を背負っている。今何を為すべきかを直視し、社会の前進に的をしぼって、誠実に取り組むべきである。

中国の教えに、「誠は天の道なり」といわれているとか。

誠実こそ、これからの人間世界への唯一の道であり、その信念で貫ぬかれてきたわが名電校。

その名電校生であるわれわれは、全力を傾けて、この道を突進すべきである。

前校長後藤鉀二先生は、常に「一以て之を貫く」の精神で努力精励され、

後藤淳現校長先生は、「初心を忘れるな」と、原点に立って名電教育に打ちこんでおられる。

一とは誠の道。

ただこの一つの道を瞬時も忘れることなく、われわれ名電校生は、伝統ある校風の発揚に立ち上がるべきである。

シキシマパン
高級和洋菓子

合資会社　紅扇

高校生活には「コース」がある！
学力を伸ばし知性を高める
高1 コース
毎月14日，全国でいっせい発売
学力を伸ばし進路を決める
高2 コース
現役合格をめざす高3生に
高3 大学受験 コース
「コース」三誌は高校生に最もよく読まれている雑誌です（毎日新聞社編「読書世論調査」で一位）。「コース」とともに前進しましょう
あなたの適性職業と大学判定　電子頭脳による総合診断と指導
発行　学研　〒145 東京都大田区上池台4−40−5

各種板硝子・鏡
井伊ガラス
共栄式ビス

健康の環を世界に
広げる森永乳業……
春です毎日午乳を飲んで
立派な身体を作りましょう

森永牛乳
玉木販売所　千種区上野町五の六五　TEL（711）2235

私の経験から

M－3A　小川　明優

卒業するに当たって、私ながらに一言書いてみました。

まず会長という大役を頂いて、初めはまごついてしまい、どうしたらよいかと二三日、考えてみましたがどうしても、良い考えが浮かびません。でも、生徒第一主義の生徒会というものにしたいと、いろいろ工夫してみました。

前期というものは、学校の行事とか生徒会の行事であっという間に過ぎてしまい、どうもうまく行かなかったようです。

生徒会の行事の一番初めは、執行部で話し合った結果、球技大会と運動会の二つの行事案が出来上がり、議会にかけたところ、議員たちの間に、二つとも行なって欲しいという意見が多く、その案が実行されることに決まった。

そして、初めに球技大会を開くことにして、準備にとりかかったのですが、いろいろとむずかしい点が出て来ました。

まず日取りですが、これは少なくとも三日間かけて楽しい大会にしたかったのですが、授業との関係で、一日半ということになってしまいました。

日時が決まれば、後は内容・運営という事です。先生方とも話し合った結果、種目は、バスケットボール、卓球、ソフトボール、バレーの四種目とし、所要時間は、バスケット一試合四分、バレーは十五点一セット、卓球は二十一点一セット、ソフトは五回戦で七点差によりコールドゲームというような事になってしまい、生徒の諸君には、あわただしい球技大会になり、迷惑をかけてすまなかったと思いました。

球技大会が終わって次は運動会です。執行部で原案を作り、議員が話し合い、レクリエーションを主として、生徒が見て楽しむものにしたいという事で、クラスの全員が出場できるようにしてみました。

中でも、ラッシュアワーうどん喰いレース、尋ね人障害物リレー、樽ころがし等は、かなり人気もあり楽しめたと思っています。

前期の最後の行事となりました学校祭ですが、創立六十周年ということで、例年より力を入れ四日間をかけることに決まりました。

愛工大のブラスバンドとか、ロックグループの人たちにも出演して頂き、また特別出演としては、生徒諸君の協力により、チェリッシュとDJであるキャットをも呼ぶことが出来て、非常に、印象深い学校祭であったと思っています。

最後に、僕のような男について来てくれた執行部の諸君や議員の方々、そしていろいろと御指導下さいました先生方に、深く感謝いたしております。

今後の生徒会の発展を願い在校生の諸君にお任せいたします。

生徒会に思う

生徒会長　西畑　義人

私達は生徒であると共に、それぞれの世代の時代に生きる若者でもあります。

私達は、高校生活における共通の問題について、話し合い、また、解答を得ようとした場合、自主的にし、有意義なものとする事の出来るものは、能率的で活発な運営のなされる生徒会ではないでしょうか。

さて、そこで私達は、個人個人がどの様にして生きていくか、真剣に考えて行動していくかという問題を考えてみたいと思います。

ある時には、将来に対するそれぞれの希望とか、また、周囲の環境によって、個人の考え方には、かなり違ったものがあり、思っていても予期した方向に反する行動をする場合もあると思います。

そこで、こうした個々の考え方、行動が、日常生活や、学校における集団的な形態においても、各種の態度となって現われてくると思います。例えば、意欲的な活動をするものと、無気力で何となく利己的な感じのする者。その結果、ヤル気があるとか、ないとかなどという評価が生まれることになると思います。

然も、公・私立という学校の違いが、色々な形で私達の学生生活に影響をあたえていると思う場合が出来てきます。結果的に、よりよい状態を求めようとして、欲しながら満たされない様な気持ちが現われて違った形で出てきたり、どこかにトジコメラレテいると思う状態ができるのです。

さて、私達は、一つの問題の解答を求められていると思います。いかにしてその問題を解くか、考えていきたいと思います。

その中の最大公約数を求めてみたいと考えます。

つまり、個々の考え方の中の最も共通した問題について、よく話し合う事が大切です。そうして、自分の意識の中にひそんでいるものをありのままに、素直に出してみたらどうでしょうか。よく、カッコウヲツケルなどと言うが、この場合、そうした弱い面だけでなく、もっともっと良い面に気付かずにいるのかもしれません。

何でも一歩前進するという事が、自分を次の段階に進める為の力になると思います。そこで、私達は、みんなが同じ状況で何でも言い合える場、何でも考え合える場が必要だと思うのです。

その意味において、私は生徒会のあり方に、もっと内容のある、しかも心のかよい合ったものとして存在させるべきだと考えるのです。

私は後期生徒会に於て、皆さんからの御支持により会長として、この役目を果たさしていただくにあたり「心と心のふれ合い」という事をつよく訴えました。

そうして、一人でも多くの生徒が、より充実した高校生活をすごされる事を呼びかけました。今回、皆さんの努力によって、生徒会誌〝喬徳〟第2号が発刊されるについても、こうした文集にして発表してほしいと願ったからであります。

しかも、こうした事が、何年たっても自分の母校とのつながりを意識し、克く高校生活を通じてふれ合った大勢の先輩後輩、または友人達との思い出となり、生きる実感となって評価されると思います。

私の近所にKさんと言われる方がみえます。この間〝喬徳〟の話しをしたら、かって第一号発刊の際、これに携わったとの事で、更に嬉しそうに、あれこれと当時の事を話され、私は第2号をかならず届けると約束しました。

このようにして私達には限られているようで、まだまだみんなで話し合えば、いろんな形で、自分達の回りを、どんどんと開拓して行く事ができると思います。そうした事に、積極的に参加する事を、是非皆さんにすすめたいと思います。自分が、こう思う、こんなになってほしいと考える事を自分達で考え、実践していく事を嫌がったり、怠けたりしている事は不幸です。自分で行動する楽しさをもってほしいものです。

やがて、三月、私達は三年生の先輩を、ここに、送り出します。また、新しく名電工高の門をくぐる人々にも、実にたのしい学校である為に、より活動的で、「自分達の学校である」という誇りの言えるような学校にするよう、力を合わせて進んでいきたいと思います。

また、そうした意義のある、しかも、意欲的な生徒会であるべく、心から希うものです。

学校祭点描

―一年生の声―

(1)　学校祭について

僕は、学校祭という行事は、どんな事をするのかと、大いに関心を持っていた。

そして、僕にとって初めての学校祭は、僕の高校生活の中で、充実したものになったと思う。

映画鑑賞の日は、よく晴れた日で、気持ちがよかった。だけど、映画は、声がさっぱり聞こえなかったので、あまりおもしろくなかった。

模擬店は、大ぜいつめかけて、にぎやかだった。長い列が出来ると、知らない二三年から、たのまれたりした。こういう事は、ふだんあまりない事だが、良い事だと思う。

それに、模擬店を生徒の手でやっているのは、大変意義があると思った。

一番にぎわっていたのは、とうもろこしだった。それに、少し焼き足らない所があって、生徒らしい焼き方だと思った。

チェリッシュの特別公演は、ほんとうに楽しかった。ああいう公演は、どんどんやればいいと思う。僕は、歌手の歌を、生で聞いた事があまりないので、チェリッシュの公演は、僕にとって、よい思い出になることだろう。

だけど、二年か三年の一人が、ミカンを投げたのは残念だと思う。それに、DJの中村美恵は、ラジオで声を聞いた事はあるが、顔を見たのは、初めてである。それにしても、おもしろい声をしていると思った。

学校祭も後半に入って、愛工大軽音楽演奏会を、聞いて、ブラスバンドの演奏と比べて、気楽に演奏をしているのが、よくわかった。演奏中でも、顔を見合わせて笑ったりしていた。

ザ・チェーンズの演奏は、あまり音が大きいので、聞きずらかった。

展示会は、各クラブ思考を凝らしているのがよくわかった。運動クラブの楯やカップが、多かったのには驚いた。

クラス展では、写真や絵画などが目についた。それに写真にSLが多いのが目立った。絵画も、一人一人独特の塗り方を、しているのに気がついた。

ブラスバンドの演奏は、何度聞いてもいいものだと感心した。

学校祭も最後の日になり後かたづけが始まって、今までの事が、急になつかしくなって来た。来年の学校祭が、今から楽しみになって来た。

来年も特別公演をやればいいと思う。

(2)

学校祭第2日目に、チェリッシュの特別公演があったが、その時、見ている方の態度が非常に悪かった。

学校祭というものは、みんなが楽しくやるものだからさわいだっていい。しかし、演奏にはいり、歌にはいってもざわざわしずめて、一体みんなは何をしているのだろうか。真面目に聞く気はあるのか。

だいぶ前の話になるが、僕がフォークのコンサートを見にいったときなどは、演奏にはいる前にやじをとばしたり、ざわざわしていたが、演奏にはいるなり、みんな静かに聞いていたのである。

だいたい、音楽というものはみんなが一緒になってやるもので、一人だけがいきがって、物をぶつけてみたり、さわいだりしても、自分がバカを見るだけである。だから、聞く側は、こういう気持ちでやってほしいものである。

チェリッシュも楽しくやってくれたことに感謝したい。

その他では、運動クラブが主催した模擬店は、非常に楽しかった。飲み物、みたらし、とうもろこし、アメリカンホットドッグ、みかんなどたくさんでた。

売れゆきの方は、町でも少ないホットドッグ、とうもろこしなどがよく売れていたが、みかんは、どこの家にでもだいたい置いてあるものだから、売れゆきの方はあまりかんばしくなかったようである。

私の学生時代

教諭　滝沢　秀夫

高校時代は、毎年の遠足、運動会、二年生の三月に実施される関西・四国への修学旅行、年二回の学年一斉テストの校内掲示、友人五・六人での山登り、夏のキャンプ等が思い出される。

特に私にとって印象深いのは、二年の時の国語の佐藤先生と、数学で微分・積分を習った時である。

この先生の影響により、トルストイの「人生論」、三木清の「人生論ノート」、ボナールの「友情論」、倉田百三の「愛と認識との出発」などを読んだ。

一方、微分・積分に接した時には、もう少し深く勉強してみたいと思ったし、答えが正確に求められる科学的なものの方が普遍的であり、真理であるとすら考えた。

今、考えてみると、私には「哲学的」なものと、「科学的」なものとの考え方が疑問として、存在していたようだが、この疑問を与えてくれた佐藤先生に私は感謝しているし、私はそれを先生の体臭だと考えている。

名古屋へ来て、四年間の大学生活を過ごしたが、電気工学を学びながら、一方では「哲学的」な疑問と興味を求めていたように思う。

科学は分析的記述であり、哲学は総合的解釈である。科学は全体を部分に、有機体を器官に解きほぐそうとし、我々に知識を与え、哲学は我々に知恵を与える。

私が高校時代に真理と考えていた普遍的なもの、「科学」が実は宇宙の一部分であり、二者択一的な性格、性質のものではなく、「哲学」も「科学」もと考えるようになったのはこの頃である。

私が読書に興味を持つようになったのも、この先生の体臭によるものが多くあったし、私も教壇に立つ者の一人として、一人でも多くの生徒に体臭を与えられるようにと念じている。

大学時代には、友人四・五人で伊豆、四国、九州方面へ旅行した。

伊豆では「網代」も漁村で好きだ。早朝に漁師と一緒に、船に乗せてもらい遊んだ。左前方に「熱海」が、右前方には昔ながらの電燈が防波堤にともり、対称的であった。

四国では、屋島は好きな場所の一つであったが、馬引きや、古風な物の良さが失なわれ、その後行った時に団体用の「レストラン」が出来ていて、観光化で失望した。

九州は三年の時に夏休みを利用して、十日間の予定で行ったが、城が好きなせいもあるが、熊本城が印象に残っている。加藤清正の城で名城の一つである。又、水前寺公園も美しい。

日南海岸も美しく、二日間泳いだが、我々男性四人組はアベックが多いのに困惑したことを今でも覚えている。

大学一年の時に、「伊勢湾台風」を経験したが、下宿生活をしていて、夜中の一時過ぎまで戸を押さえていた。次の日に友人の南区の家へ救助に行ったが、行くのに四時間余かかったことを覚えている。

プロ野球では、中日に当時、「ドビー」や「ニューカム」選手がいて、入場整理、場内整理のアルバイトに行ったが、三時から試合終了時迄がアルバイト時間で、実質は交代制であったので九回のうち、五回は試合を見れたし、何よりも、三時からのフリー・バッティングが、バックネットより二箇所で行なわれたので、ネット裏よりそれを見るのが楽しみで、ドビー選手の丸太棒のような太い腕が、ほんの二、三メートル先に見れたのが今でも印象的である。アルバイト料は四百円であった。

私にとって学生時代として、特筆すべきものは何もないが、思索として、現在と結びついているし、未来にとってもそう言えると考えられる。

運動クラブ 48年度への展望

―顧問先生―

フェンシング部

昭和47年度の終わりにあたり、この一年の回顧をしてみますと、

5月28日…県高校総合体育大会兼全国高校選手権大会県予選会、男子団体優勝G3A清水茂敏、E3E加藤格也、M2A稲垣孝之、女子団体優勝G3D岡本艶子、G3D宮下真砂子、E2A服部多美恵。

6月4日…第12回中日本フェンシング競技選手権大会、男子準決勝で、岡本、宮下が破れる。

6月11日…県高校総合体育大会兼全国高校選手権県予選会、個人、男子優勝清水、第2位稲垣、第3位加藤、女子優勝宮下、第2位岡本、第3位服部。

6月24～25日…東海高校総合体育大会、団体男子第2位（清水・加藤・稲垣）女子優勝（岡本・宮下・服部）、個人男子優勝加藤、女子第2位宮下、第3位岡本。

8月1～4日…全国高校選手権大会、男子団体二回戦、女子三回戦、個人各々3回戦（男女共）（清水・稲垣・岡本・宮下）。

8月20日…第27回国民体育大会愛知県予選会、男子高校優勝（清水・加藤・稲垣）女子個人第2位岡本、第3位宮下。

9月3日…第27回団体東海、北陸地区ブロック予選会、男子第2位、女子優勝（岡本・宮下・吉原（日女大4年）。

10月3日…大阪府選手権大会、個人男子準決勝（清水・加藤）、女子個人第3位（宮下・岡本）。

10月22～27日…岡本・宮下（吉原日女大4年）

いずれの選手も大学生で愛知県は高校生二名と大学生一名の構成で第3位を獲得。実に賞さんの値充分あり。

11月5日、県高校新人戦、女子優勝服部多美恵、男子優勝村原憲明、MIC第2位稲垣孝之、第3位伊藤達也GIB団体優勝（稲垣・村原・伊藤）、奥田明先生の成績については、6月4日第12回中日本フェンシング競技選手権大会フルーレ競技、二年連続優勝、第27回団体フルーレ第1位、エペ第5位、サーブル第2位、総合優勝女子の成績を含め、男女総合優勝（十年ぶり）を獲得。

昨年、今年と全国高校の選手権にあまりよい成績でなかった。全国一の優勝回数をもつ名電工高としては残念だ。なんとか三ケ年連続して練習に励んでくれれば、48年度の8月には県立体育館で全国高校選手権大会が開催されるので現在の二年・一年が一丸となって、心機一転の意気込みで練習しているので多少望みをかけている。次年度は、インターハイ、国体に優勝。往年の名電気質を発揮したい。

剣道部

一、昭和四十七年度の回顧

自主的に練習を続けること。

毎日休まずに、不断の努力を続けたものはすばらしい進歩を遂げた。本年は二年で剣道三段をもらった者が二人出来た。一年で初段二年で二段、三年で三段、皆三段をもらって卒業していたら初段も合格しない。すばらしい素質を持ちながら休んでばかりいた人があったのが残念だった。

大会の戦果はまずまずというところだった。

私学祭は県優勝、新人戦は地区で優勝、県で三位であった。

二、昭和四十八年度の展望

(1)　全国大会出場を目ざして毎日努力をつんで、地区・愛知県・東海地区・全日本と進みたい。昨年の成績からみると夢ではないように思われる。紙一重だ。試合のがめつさ、厳しさ、必勝の信念で進んで、無心で戦わねばならない。かたくなるのが一番まずい。それには練習。休まずに練習回数を多く重ねることが大切である。

次に剣道形の練習を多くやること。姿勢・態度・剣理を知り、無意識に形が出なければ駄目だ。

(2)　礼儀正しく

剣道は不屈の精神と、正しい礼儀を要求している。剣道クラブ員は他の模範でなければいけない。特に礼儀正しくなければならない。剣道クラブ員は、学科成績も優秀の者が多い。学科と両立が出来ている。

(3)　全員三段で卒業

先輩は剣道をやってよかったと度々もらしている。

折角、名門名電工高の剣道部に入ったら、真剣に努力して、全員三段をもらって卒業して欲しい。休まずに練習した人は三段で卒業している。とに角、練習によって、自己を見出し、ファイトを作り、がっちりした頑丈な体と、不屈の忍耐力と、臆せず進む気力を作って欲しい。

卓球部

卓球部の生みの親であり、又、育ての親でもあられた前学園長先生がお亡くなりになって早一年が経ちました。

父と仰ぎ、師として尊敬の突然の死は、私達を深い昏迷と失望に陥し入れましたが、幸いにも現学園長先生の大いなるご理解によって、それまでの路線が継承せられるところとなり、現在では、部員一同以前にも増して夢と希望をもって練習に励んでいるところであります。

しかしながら、残念なことに昨年一年間の成績は例年に比較して最悪ともいうべきものであり、その反省するところ大であります。

私達は初心にかえり、不成績の原因を徹底的に解明し、新しい合理的な練習方法・内容をもって本年こそ卓球名電としての満足のゆく成績をあげたいものと考えております。

さて新年度の行事でありますが、五月に入りますといよいよ本格的な大会シーズンになり、インターハイ予選、国体予選、インターハイ、国体、全日本選手権と試合が続きます。私達が最も重点を置き目標としているインターハイ（団体戦）は、八月初旬に準地元ともいうべき三重県にて開催されることが決定しております。

今年は、昨年優勝の興国（大阪）をはじめ、伝統の熊谷（埼玉）、日大一（東京）、相撲工大付（神奈川）、東山（京都）、新鋭の近大付福山（広島）、鳴門（徳島）等、東西に数多くの強敵があり、この大会に好成績を収めるのは至難のことで誠に前途多難ではありますが、しかし本校も今福（護）、今福（靖）、森、前田を軸とした粒揃いのチーム編成が可能であり、団体戦の優勝を狙う条件は八分通り備えたといえましょう。

私達は、決意をあらためて研鑽を重ね予選会から取りこぼしをせず最終目標を勝ち取るよう努力してゆく覚悟でおります。

野球部の体力づくり

野球部

毎年ベスト4とか、ダークホース名電工と騒がれ、どうしても優勝出来ないまま四十七年を過ごしてしまった。

甲子園出場校（成章校）を地元豊橋球場で撃破し、翌月前年同様大同工校に1～0で措敗して、夢は消えてしまったのが一番残念な記憶であった。メンバー九名中、八名までが三年生、たった一人投手が一年で好投して、成章に勝ったのが、唯一の土産であろう。

残された問題点はやはり好投手を持ち、打力あるチームで相手を粉砕出来る実力ある名電工でない限り、甲子園の地は踏めない。毎年毎年同じ事を繰りかえしを重ねても何も残らない。

そこでチームの色を一変する事で再出発しようと、昨年秋より全一年生チームに切りかえ、ヤングパワーの養成に全力を注いでいるのが野球部の近況。

先づ、四十八年度の展望としては、八月まではどんな目に合おうと教えてもらおうという気持ちで全力で練習試合も公式戦も、一つ一つ大切に学習する心で立ち向う。二年生の新人戦からは甲子園へのレールに乗ってフル回転を始動しようと、今日も粉雪の舞う八草のグラウンドで白球を追っている。

明るい材料としては、投手が健在であること。次に一年ながら昨年ひと通り試合経験をしていること。全勢力がヤングで合宿所での私の下に精進をしているなど、監督はじめやる気充分で毎日を送っているから、昭和四十八年度は粘り気あるチームから強力チームへと変身する覚悟である。

相撲部

三月、小田（トヨタ自工）、北川（トヨタ自工）、沢田（自営）の三君を社会に送り出し、白藤君を首将とする新チームを結成し、「月月火水木金金」の意気で毎日猛訓練を続けましたが、三君の卒業の痛手は大きく、この一年間、県下の各大会に於て、白藤君一人個人二位の好成績を挙げましたが、団体に於て三位の成績に甘んじなければならない様な状態で、且っては、全国制覇の偉業を成就した先輩諸君に対しても申し訳なく思っている様な次第です。

「夢よもう一度」と何が何でも頑張り最強チームを再現したいと日夜念願していましたが、幸に昨年東海四県中学の大会で団体優勝、個人優勝の豊橋南中より四人の好選手を迎え入れる事に成功し、本年度は一年、二年を主体とするチームで戦いたいと思っています。

この一年間は、あまり好成績を望む事は困難ですが来年度は全国大会に進出し、全国に「名電工相撲部健在なり」と実力を発揮し、皆さんの期待に応えたいと張り切っておりますので、来年まで長い目で我が相撲部を見守って頂きたいと念願する次第であります。

読書と学校図書館

卓球部練習風景

学校図書館は諸君を待っている。

われわれは読書により、教養・学習能力を身につけ、また、抜粋・大意の把握、それに関連した自然的時代的な変遷、それに関連のある前後左右のこと等、調べが進むにつれ、読書の興味はいっそう増してくるものである。

諸君は、小中学校の九年間、数多く学校図書館で学習し読書をしたことであろう。また、公共図書館にも何回か足を運んだことであろう。

しかし、中には、図書館を利用するに際し、手続きが面倒だ。待つのがいやだ。それよりテレビの方が手っとり早くて興味があり、深夜放送に魅力を感じる。何より文字・語句の抵抗が多く、図書館の堅苦しい雰囲気が気になる等と、読書そのことより図書館にはいることを敬遠するものが多いであろう。

しかし、諸君の心構え如何で学校図書館は楽しい場であり、生活必需品に変わるものなのだ。

学校図書館は、諸君の自発的な学習研究に必要な図書雑誌類を、公共図書館に比較して、より多種多様に準備し、司書教諭のアドバイスもあり、諸君の目的解決ができるだけ短時間に容易にすむように整えられている。

購入する図書も、全国高校生のための必読書である学校図書館撰定本を多く揃えるようにし、一般教養或は小説等も、世界各国の名著にわたり巾広く集められている。

また、統計的な資料、各科に適した専門参考図書も一応揃えてある。個人が購入するには負担が重く、手の届かないような事典・辞典類も、各種いれてあるので充分利用できるわけである。

「食べずぎらい」で、いつまでも図書館の利用をしないでしまって、やがて社会人になった時、能力不足、頭の栄養不足が明確な事実となって、己にかえってくるものである。

若い希望に燃える諸君。高校時代こそ一生の思い出になる、人生の糧として、の読書にうちこみ、週のうち、何日かを読書の時間に充てるよう努めてほしい。

読書にはいろいろの型がある。

Ⅰ　静かな図書室でこつこつ学習する型。

Ⅱ　他人の意欲に牽引される型。大学受験の前はこの型に含まれる。

Ⅲ　在学生の場合、宿題に対するレポート作成に必要な資料をまとめる。余暇の時間を楽しく過ごす型。写真の多い紀行や地誌を手にし、芸術の鑑賞に、また、観光旅行に、そして、歴史学・考古学の研究へと発展するもの。

Ⅳ　ただ何となく時間を過ごす型。いっ時をマンガで楽しむ。

Ⅴ　この(Ⅰ)から(Ⅳ)までは、諸君のおかれている立場から好ましい読書型だと思う。

今朝久し振りで、地下鉄の中で、本校の生徒が、テストのためか、抜き書きした紙片を一心に暗記しているのを見た。

この気持ちを常時もち、余暇を利用して新書・文庫を読むようすすめたい。

読書は学習の一つであり人生案内である。

諸君は、大いに学校図書館を利用して、常に前向きの生徒であるよう期待するものである。

編集後記

○また、春が来た。万物が躍動するとき、陽の光が心をはずませる。そして、数多くの先輩を送り出す。前途の幸をお祈りする。

○故学園長先生の胸像を仰ぎ、学校長先生の原稿をいただく。眼光紙背に徹する気持ちで読んでほしい。

○滝沢先生の学生時代と、河口先生の中国の旅の記。何かをつかみとってほしいものだ。

○卒業する先輩の文、まことに平易なものであるが思考と体験から得た尊いものであることを知ってほしい。

○心の叫びというか、文面ににじんだものがそれぞれにある。今回は、ニュースというより、当面の諸問題を取上げて編集したもので、とにかく熟読してほしい。

○やがて新年度。

ここで名電工生の意気ごみを見せてもらい、先輩に続き、また、よき先輩となるよう奮起してもらいたいものである。

新聞部員募集中

○希望者は部室まで○

カラープリント　○免許証明用撮影　○2分間写真もどうぞ

純正仕上E判50円

名電高生格安!!

若水カメラ　名電工前 711－1869

キハラ製図器

三角スール（竹・セル張り）

曲線定規

T型定規

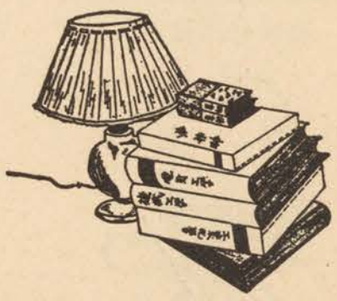
その他製図用具一式

名古屋電気工業高等学校御指定

株式会社 大附商店

TEL (231) 1744・3354

辞書・参考書の専門店



電気学園指定書店

正友館書店

千種区鏡池通2－13　城山中学校南

TEL (751) 2717